

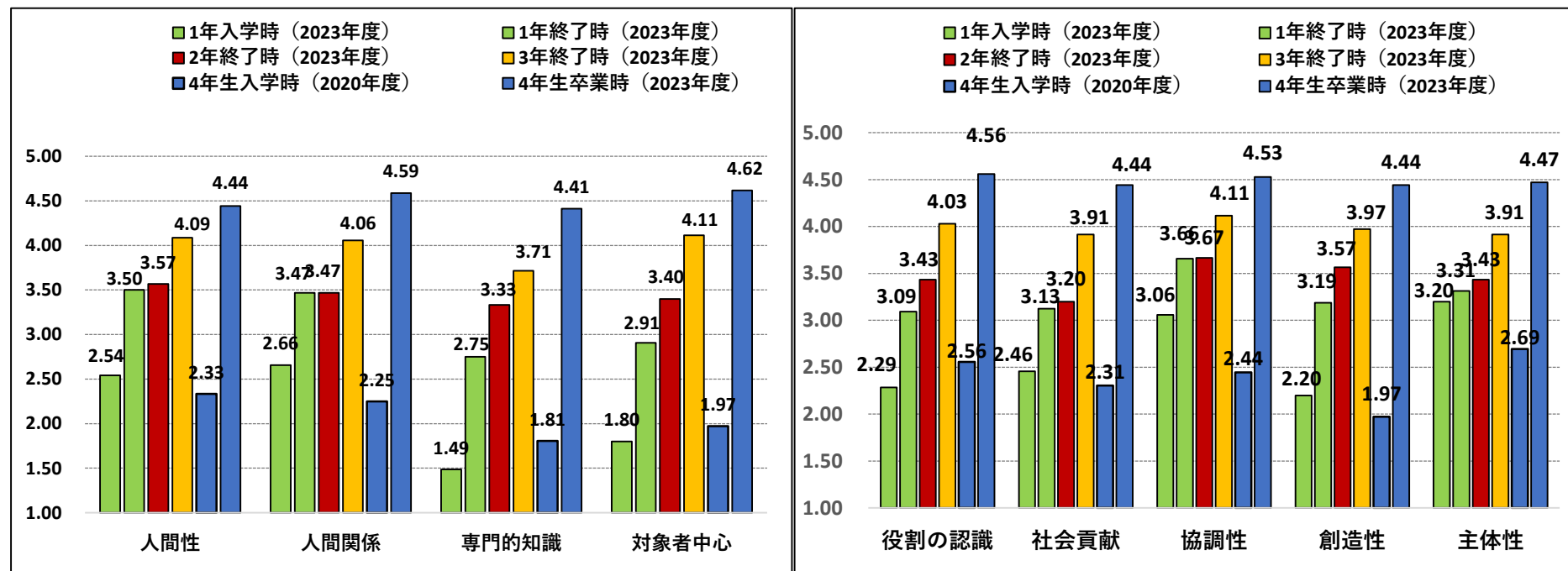
2023年度 学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）に照らした学修成果に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学修成果の把握（学科／研究科専攻の学位授与の方針）」のデータを活用した検証です。

学科・研究科専攻名 リハビリテーション学科

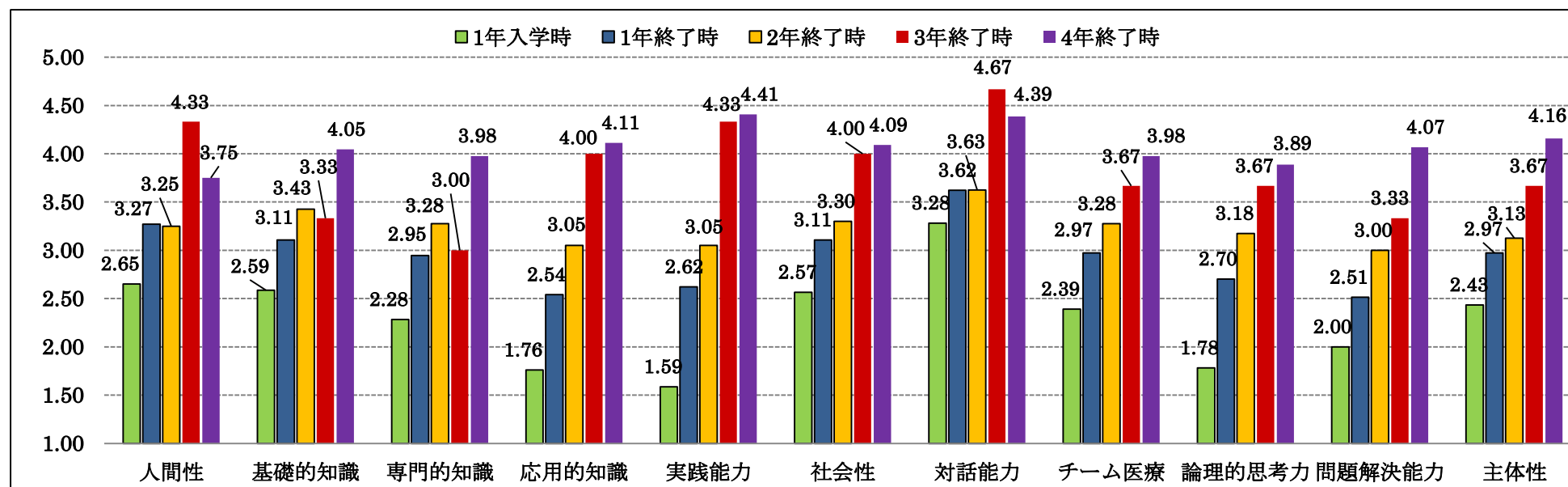
作業療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年入学時 35名（85.4%）、終了時 32名（78.0%）、2年終了時 30名（78.9%）、3年終了時 35名（92.1%）、4年終了時 34名（77.3%）。
- ・学年推移による比較の概要および前年度との比較：1年生の入学時と終了時では、全項目において上昇していた。中でも「専門的知識」が1.26ポイント、「対象者中心」が1.11の上昇と変化が大きかった。全ての項目で学年が上がるに連れ上昇していた。1年入学時と4年終了時の差が最も大きかったのは「専門的知識」の2.93ポイント、次いで「対象者中心」の2.82ポイントであった。これらのことから、前年度と同様に学位授与の方針は、各学年の学内授業および臨床実習を経験する中で適切に反映されているものと判断した。
- ・4年生の入学時（2020年度）と卒業時（2023年度）の比較：入学時と卒業時の変化をみると、全ての項目において大きく伸びていることがうかがわれた（1.27～2.93ポイントの上昇）。特に4年間で「専門的知識」（+2.93）、「対象者中心」（+2.82）での成長が著しかった。



理学療法学専攻

- **分析対象の内訳**: 1年入学時 46名 (100.0%)、1年生終了時 37名 (80.4%)、2年生終了時 40名 (85.1%)、3年生終了時 3名 (7.3%)、4年生終了時 44名 (89.8%) であり3年生終了時のアンケート回答率は低調に終わった。
- **学年推移による比較**: 1年入学時は全項目にて低値であるが、1年生終了時には全項目にて数値が上昇した。また、上位学年に進むにつれて、多くの項目にて段階的に上昇していることが確認された。基本的知識、専門的知識、応用的知識については上位学年に進むにつれて履修科目がより専門的となり、応用的知識が求められるようになることが考えられる。また、実践能力、社会性、対話能力、チーム医療、論理的思考力、問題解決能力、主体性の項目は、臨床現場で求められ、上位学年に進み臨床経験を多く積むことによって習得されたものとする。ただし、本結果において3年生のアンケート回答率が低く、真摯に学業に取り組んでいる学生のみが回答した可能性があり、適切な判断および検証が困難である。毎年、アンケート回答率を高めるために学生への周知が必要である。



- **4年生における入学時からの経時的変化**: 進級に伴いステップアップしていることが確認され、人間性を除き、スコアが4.0以上の高い達成度となった。4年間を通じて実施された学内、および学外での学修機会にて、卒業後、リハビリテーション専門職として働く際に重要な知識と技術が培われたものとする。人間性については、社会の中で多くの方々と接する中で向上していくことが可能な能力であり、卒業後の改善が期待される。

